

この図から、 $x=45$ に対する偏差値 y は、ほぼ40と読みとることができます。このようにして、この図から、得点30のときはいくら、31のときはいくら、……と読みとり、偏差値換算表をつくれればよいわけです。

なお、この場合、偏差値は四捨五入して、整数値で読んでおきます。

また、前ページで説明した2番目の点のとり方ですが、これは、次のようにしても良いでしょう。

①で、 $x=\bar{x}+\sigma$ のとき、 $y=60$ 、すなわち、 $x=60.3+15.2=75.5$ のとき $y=60$ ですから、点(75.5, 60)をとり、1番目に求めた点と結びます。

前ページで、 $x=\bar{x}+2\sigma$ ととったのは、実は、1番目の点と少し離れた点をとって、直線をひこうというわけでした。

10. T 得 点

いま、あるテストで、5教科の得点の分布が、いずれも正規分布からずれている場合について考えますと、この場合、各教科で、得点を偏差値に変換したとしても、それらは全体の中での相対的な位置を示さなかったので、成績の相互比較は不可能でした。

このような場合に、この5教科の得点をそろえて、比較可能にする方法の一つに、T得点があります。T得点は次のようにして求めます。

1. まず、平均値が50、標準偏差が10の正規分布を、基準分布として決めておきます。

2. 得点の分布と、基準分布の同じ割合をしめる点を対応させます。

例えば、得点の分布の下から $\alpha\%$ の位置を示す点に対して、基準分布の下から $\alpha\%$ の位置を示す点Tを対応させ、その得点をTとします。